

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習指導をおこなう。 ・「聞き取る力」「読み取る力」「書く力」「要約する力」「説明する力」を高める学習指導をおこなう。 ・生徒の主体的・協働的な学習を重視し、学習内容の深まりと拡がりを目指す学習指導をおこなう。 <p>②教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路を見据えた「学びのコンセプト」に基づく教育課程を実践する。 ・これまでの福祉教養コースで取り組んできた成果を学校全体の特色とする教育課程を編成する。 	<p>①授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高浜スタンダード」として生徒に身につけさせた力を教員間で共有し、授業研究に特化した教科会を開催するなど協働的な授業づくりに取り組む。 ・読書活動を推進する。 <p>②教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた丁寧な学習指導から進路を見据えた発展的な学習指導に加え進学希望者対象の特学講座や夏期講座等、H29年度入学者用教育課程について細部を完成させる。 	<p>①不断の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習目標の明示と振り返りを徹底する。 ・同一の授業パターンを徹底的に繰り返し、生徒の学びに対する安心感を与える。 ・家庭学習課題と確認テスト等を実施し学習習慣の定着を図る。 ・朝の読書週間を設ける。 ・要約や小論文など、書く機会や資料を読み取り、要約したり他者へ説明する機会を増やす。 ・グループワークによる協議や教え合いの機会を増やす。 ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について職員研修をおこなう。 <p>②教育課程の改編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度入学者用教育課程表の最終確認。 ・特学講座の充実と体験型夏期講座についてH29年度から1、2年生必修となることを踏まえた講座の充実と生徒の参加を促すとともに、本校を会場とした手話検定の実施をめざす。 	<p>①生徒による授業評価</p> <p>②H29年度入学者用教育課程表が完成したか。</p>	<p>①・生徒による授業評価では、評価区分「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」に90%以上の生徒が回答した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期末試験後、朝15分間の朝読書を4日間実施した。 ・県教育委員による授業改善に向けた職員研修を実施した。 <p>②・普通科高校としてのニーズに応える教育課程表が完成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の特色として「高浜高校福祉教育の全体計画」を策定した。 ・特学講座はクラス展開とし、ICT活用型の学習教材の導入を決定した。 ・本校を会場とした手話検定を実施した。 ・職員室前と図書室に学習コーナーを設置し、多くの生徒が活用した。 	<p>①・学習目標の明示と振り返り、授業パターンの定着、家庭学習課題と確認テスト等の指導成果について検証し、さらに改善をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書についてクラスでの取組に不十分な状況が見られたので、効果的な読書活動の検討を図る。 ・生徒学力調査等の結果から、各教科において重点課題を検証し、生徒主体の授業の工夫をする。 <p>②・平成29年度入学生用教育課程を実施し検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉教育の全体計画」を踏まえ実践し、検証・改善していく。 ・H29年度入学生の特学クラスは、通常の授業時間内で発展的・応用的な授業展開をするが、事後指導も含め、ICT活用型の学習教材に係る運営や指導方法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見学したが、生徒は落ち着いて学習に向かっている様子が伺えた。授業の学習目標を生徒自らが意識する取組が必要である。 ・上級学校に進学した際、高校までに一冊も本を読んだり新聞を読んだりしていない学生が増えている。朝読書はとてもよい取組である。 ・学校として様々な切り口から特色を展開している。高浜の生徒の実態を踏まえて今後も授業改善に取り組んでほしい。 ・「福祉教育の全体計画」を見て、コースがなくなったあとも福祉の特色が残っていくことがわかり安心した。 ・特学は福祉と並び今後の高浜高校の特色を担うものになるので、指導方法について継続的な研究をお願いしたい。 ・手話検定試験の校内実施は大変よい取組である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として生徒に「身につけさせたい力」を明確化し、職員全体で共有した。また、授業研究に特化した教科会を実施したり、管理職による授業観察後の振り返りを教科単位で実施したりして、組織的な授業改善を進めた。 ・これからの課題として、学校の授業と家庭学習との関連付けを深めること、生徒の自学自習の力を育成すること、要約・説明・発表・論述といった言語活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業方法を研究することなどがあげられる。 ・福祉教養コース募集停止後の普通科高校としてのニーズに応える教育課程を編成するとともに学校全体の特色として福祉教育を継承する「福祉教育の全体計画」を策定した。 ・「特学」はICT活用型の学習教材を導入し、自学自習する力を育成し、発展的・応用的な学習を進めるための環境整備を行った。 ・今後、新しい教育課程における3学年の特色選択について講座内容の検討・精選を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で見通しや振り返りの時間をつくり、生徒自らが授業での学習を内省したり、課題を把握したりすることを学校全体で取り組む。 ・要約・説明・発表・論述といった言語活動を取り入れたアクティブ・ラーニングを授業研究の年間テーマに設定し、公開研究授業や研究協議を実施する。 ・ICT活用型の学習教材については学習・進路支援グループの中に担当をつくり、教科担当を支援していく。 ・高浜高校として生徒の進路実現や特色を生かした選択科目の設定を検討する。

2	生徒指導・支援	<p>①規範意識を醸成するとともに、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②自己管理能力を高め、他者を理解する心を育む。</p> <p>③教育相談体制の一層の強化を図る。</p>	<p>①部活動や生徒会行事の活性化をとおり、責任感の向上や生徒同士の連帯を図るとともにルールを守る大切さを学ばせる。</p> <p>②生徒の人間関係の状況把握に努め、早期の対応ができる体制を強化する。</p> <p>③重篤な問題に至らないように職員一丸となって取り組む。</p>	<p>①生徒が主体的に規範意識や責任感・連帯感を高めるように部活動や行事の活性化を支援する。</p> <p>②日々の生徒状況の把握と「いじめ防止アンケート」の実施と活用。</p> <p>③H27年度策定した「校内教育相談体制」に基づき適切かつ迅速に対応する。</p>	<p>①部活動や行事に係る生徒アンケートの実施で生徒の充実感を確認する。</p> <p>②SNS関連の指導件数と昨年度比</p> <p>③課題の解決に至った件数と昨年度比</p>	<p>①部活動加入率は66%（昨年度65%）。文化祭の生徒満足度は高い。（アンケート結果93%以上）</p> <p>②指導件数は5件（昨年度4件）携帯電話教室、講演会を実施。</p> <p>③SCに繋がった生徒は19名（昨年度10名）</p>	<p>①部活動加入率を増やすため、新入生加入の工夫を行う。また、体育祭・文化祭等を生徒がさらに主体的に運営できるよう支援を強めていく。</p> <p>②いじめ問題を含め、命の尊重を考えさせるため、人権教育に係わる授業など、多くの場を設定する。</p> <p>③課題を抱える生徒が増加しつつあるが、早期対応を図る。</p>	<p>・部活動や行事等とおして生徒はさまざまな力をつけていく。今後も充実させてほしい。</p> <p>・SNS等の使用について今までにない案件が生じていることがわかった。指導が難しい件もあると思うが学校全体で取り組んでほしい。</p> <p>・今後も一人ひとり課題に適切に対応する体制で臨んでほしい。</p>	<p>・生徒会行事や部活動の活性化をとおり生徒の自己肯定感を育むとともに、自己管理能力や他者理解を深める指導を各種講演やLHR等を通して行った。</p> <p>・課題を抱える生徒について現状や対応方針等を話し合う教育相談会議を定期的実施した。</p> <p>・生徒会や部活動だけでなく日常の授業の中でも、自己肯定感を高める指導を推進していく必要がある。</p>	<p>・学校行事や部活動について、生徒の自己管理能力を高める視点で指導を行っていく。</p> <p>・教育相談では、課題の早期発見につとめ、教員間の連絡を密にし、外部機関との連携も積極的に図っていく。</p>
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現を果たす。</p> <p>②大学・短大進学における一般受験希望者数の増加を図る。</p>	<p>①上級学校見学や職業体験の機会を増やし、生徒のキャリアプランニングを支援する。</p> <p>②外部模試や学力テストの機会を増やし、生徒の進学力を高める。</p>	<p>①進路の手引きに学習ワークシートをプラスし、見学や体験の記録をチェックし、生徒の進路意識を高める。</p> <p>②受験と関わる教科と連携し、模試等の事前学習や振り返りを実施する。</p>	<p>①上級学校見学や職業体験の参加者数が昨年度比10%増えたか。</p> <p>②外部模試受験者数が昨年度比15%増えたか。</p>	<p>①医療看護体験15名、就業体験33名、仕事の学び場9名など、昨年度より大幅増加。</p> <p>②夏季休業中に希望者対象の業者テストを実施し、93名が参加した。</p>	<p>①就業体験、仕事の学び場など、確かな進路選択に向けて趣旨説明を徹底する。</p> <p>②生徒の発展的学習を支援していくため、特学講座や夏期講習などの趣旨説明を徹底する。</p>	<p>・高浜高校が行っている体験的な学習は大変充実したものであり、魅力の一つとしてもっと発信したほうがよい。</p> <p>・一般受験で大学に挑戦し結果を出しているのは在校生徒にも大変励みになる。</p>	<p>・さまざまなキャリア教育の取組をとおり生徒が自己の適性を知り、目標設定ができるよう指導した。また、日々の授業の中で、小テストなどを通じ、できることへの達成感や自信をもたせる取組を推進した。</p> <p>・進路テストについては振り返りの時間を充実させていく。</p>	<p>・生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細かな学習相談や補習を行う。</p> <p>・生徒の積極性を引き出し自信を深めるための取組として、キャリア教育におけるさまざまな体験活動等について発表する機会をつくっていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①人とつながり福祉の心を涵養するとともに、社会とかかわる力を育成する。</p> <p>②地域の教育力を活用する。</p>	<p>①生徒が地域や人々から必要とされていると実感できる環境や地域とのつながりを創出する。</p>	<p>①地域のボランティア募集や地域行事の情報を職員間で共有し、生徒が参加する機会を増やす。</p>	<p>①ボランティア活動の参加者数と昨年度比</p>	<p>①・活動参加者数延べ1056名（昨年度799名）</p> <p>・延べ時間数3985時間（昨年度3191時間）</p>	<p>①部活動等のボランティア活動や地域行事等の参加については、「福祉教育の全体計画」を踏まえ推進していく。</p>	<p>・福祉活動やボランティア活動とおして生徒はさまざまな力を身につけていく。これからは地域と連携しながら、充実させてほしい。</p>	<p>・福祉活動やボランティア活動を通じて身につけた「つなぐ力」や「かかわる力」を、授業等での「学ぶ力」に結び付けていく取組が必要である。</p>	<p>・福祉活動やボランティア活動の実践と同時にその活動の意味について考えさせる取組を行っていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①いのちを尊重する教育を推進する。</p> <p>②防災教育、防災体制を強化する。</p> <p>③交通安全教育を推進する。</p>	<p>①健やかな身体と自己肯定感を育み、生きることの尊さを学ぶ機会を増やす。</p> <p>②地域と連携した防災訓練を実施する。</p> <p>③自転車事故の未然防止に取り組む。</p>	<p>①毎週定期的に教育相談担当者会議をおこない、生徒の情報共有に努めるとともに適切な講演会等を実施する。</p> <p>②津波対策を柱とした地域避難場所としての役割を意識し、地域との合同の防災訓練を行う。</p> <p>③スケアードストレイトの実施。</p>	<p>①生徒の情報共有が十分にでき、適切な支援ができたか。</p> <p>②避難地域住民への対応を想定した訓練が実施できたか。</p> <p>③登下校の自転車事故件数の昨年度比</p>	<p>①毎週教育相談者会議を開き、生徒の情報の共有につとめた。</p> <p>②災害図上訓練DIGを実践するとともに、地域住民の避難会場の設営や説明を行った。</p> <p>③学校・警察把握数20件（昨年度把握数なし）</p>	<p>①SCが来校する日数が少なく、早期対応が難しい場合がある。</p> <p>②地域学習の中でもDIGを実践し、地域住民の避難会場への誘導を工夫する。</p> <p>③生徒自らが気づき実践できる継続的な指導に取り組む。</p>	<p>・高浜高校は日ごろから地域との連携を密接に行い防災教育をしている。災害時に高校生が地域と協働し、どんな貢献ができるか検討をお願いしたい。</p> <p>・自転車の乗り方について交通弱者の視点をもって生徒に指導していくことが大切である。</p>	<p>・定期的に教育相談担当者会議を実施して職員間の情報共有をすすめるとともに、生徒一人ひとりの現状や課題、今後の対応について資料化し、問題に迅速に対応する体制をつくった。</p> <p>・防災教育、防災体制については地域と連携した取組を実施することができた。</p>	<p>・学年・教科・グループ等が今まで以上に連絡を密にし、安心で安全な学校の環境整備を図っていく。</p> <p>・SCやSSWの活用をさらに推進するとともに、外部の関係機関との連携を深めていく。</p>